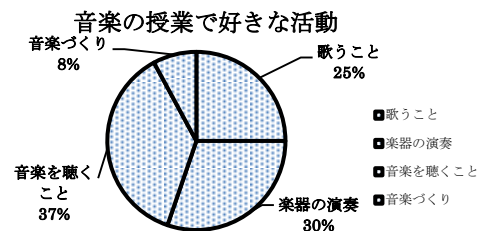
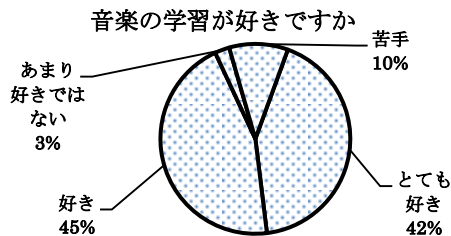


1 題材名 「日本の音楽に親しもう」

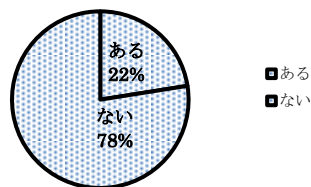
2 題材について

(1) 本題材にかかわる児童の実態

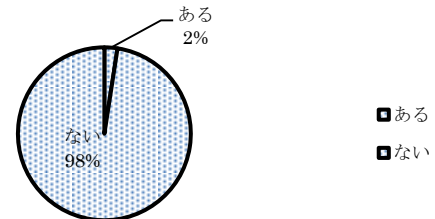
本学級児童に音楽に関するアンケートを行った。(4年3組40名、平成27年11月11日実施)
その結果が以下のとおりである。



民謡を聴いたことがありますか



民謡にかかわる習い事や活動をしたことがありますか



音楽の学習に対し、「とても好き」、及び「好き」と答えている児童は87%であり、あまり好きではない、苦手である児童は13%であった。年度当初、音楽の学習が苦手と発言する児童が多くみられたが、校内音楽会の取組を通して、合唱や合奏での演奏経験で自信が付き、音楽の学習に「とても好き」、「好き」と回答する児童が増えたと思われる。「音楽の授業の中で好きな活動」(複数回答)の中では歌うことや楽器の演奏をすることをあげた児童が多く、次いで音楽を聴くことであった。歌うことや、楽器の演奏が好きと答えた児童も、校内音楽会での演奏経験から興味関心が深まったのだろうと思われる。

民謡を聴いた経験の有無の調査を行ったところ、民謡を聴いたことがある児童は22%にあたり、主に学校での運動会や祭り、観光地での鑑賞、家族の習い事の発表会などが挙げられている。学校の運動会での鑑賞経験がある、と答えた児童が少なめであったのは、他の児童も同じ場所で聴いた経験をしているが、それが日本の民謡であるということを意識して聴いていないためこのような回答になったと考えられる。民謡に関わる習い事、活動経験を持っている児童は2%であり、地域の盆踊りで踊ったという経験が挙げられた。このことから、音楽の授業での活動を通して民謡に触れることが大切であると考えた。

本時の活動に関わる実態としては、第3学年時に「祇園囃子」「神田囃子」の鑑賞を行っている。また第4学年になり運動会の表現として民謡「八木節」をアレンジした曲でダンスを行っている。

音楽づくりの活動としては、第4学年において「歌のにじ」にて歌の主旋律に対してリコーダーで副次的な旋律を選んで演奏をする活動や、「言葉でリズムアンサンブル」ではリズムカードを用いて4拍子のリズムをつくり、そのリズムに言葉をのせ、そのリズムカードを「くりかえし」や「変化」などの音楽の要素を意識したリズムアンサンブルづくりをする活動を行った。

このような児童の実態を踏まえ、本題材で日本の民謡の特徴を取らせるとともに、音楽づくりを通して自分の意図や思いを形にしていける音楽経験や音楽の楽しさ、よさを今後の活動の意欲付けとしていきたい。

(2) 題材設定の意図

本題材は、学習指導要領第3・4学年 A 表現 (1) 歌唱 イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」、及び(2) 器楽 イ「曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること」、(3) 音楽づくり イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること」、B 鑑賞 (1) ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどをして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと」を受けて設定した。

本題材で取り上げる我が国の伝統音楽の指導として、学習指導要領「音楽科の改訂の趣旨」において、「国際社会に生きる日本人としての自覚の育成」が求められている。また、音楽科の学習においては「我が国の音楽文化に愛着をもつこと」、「他国の音楽文化を尊重する態度を養う」、という観点により、学校や学年の段階に応じて我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるよう位置づけられている。

本題材では、我が国の伝統音楽の中から、民謡を取り上げていく。鑑賞では、日本の伝統音楽に親しみ、その雰囲気や特徴を感じ取らせていく。表現活動では、民謡の歌唱や器楽伴奏をとおして実際に演奏をする中で、日本の伝統音楽の雰囲気や特徴を感じ取らせ、その感じ取ったことを生かし5音を使ってお囃子づくりを行う。これらの活動を通し、今まで学習した楽曲との違いや日本の伝統音楽の旋律のよさを感じ取らせ、この学習を通して、日本の伝統文化を大切にしたい。

(3) 本題材の指導観

本題材の学習では、日本の伝統音楽の中から民謡を取り上げる。まず、表現活動で使用する民謡の鑑賞を行い、民謡の特徴的な歌い方、既習曲との違い、使われている楽器の音色などの民謡の特徴を感じ取らせる。

そして、民謡の鑑賞で感じ取ったことを支えにし、特徴的な発声を再現させる。また、教科書に掲載されているリズム伴奏例をもとに和太鼓などを使ってリズム伴奏を行い、民謡の演奏に触れ、民謡のよさを感じ取らせたい。

音楽づくりの活動では、民謡の歌唱、演奏を生かし、日本の民謡で主に使用される「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の5音を使い、お囃子づくりを行う。個々につくった旋律を友達につくった旋律とつなげて演奏したり、こきりこで使用したリズム伴奏を和太鼓で演奏したりする活動を通し、日本の音楽の雰囲気を感じ取らせていきたい。

学習の終末の鑑賞では2曲の仕事歌の鑑賞を行う。この鑑賞活動では2曲の仕事歌のそれぞれの仕事の違いによりリズムが異なること、そのリズムがそのまま歌に生きていることや拍を感じられる旋律や拍を感じられない旋律の違いを感じ取らせたり、歌い方の違いを感じ取らせたりするとともに、導入時に感じ取れなかった日本の民謡のよさを再確認する活動を行う。

活動を重ねて深まった思いを友達と意見交流したり、そのよさを伝えたい相手を想定し紹介文を書いたりすることで学習のまとめをし、今後の学習へとつなげていきたい。

3 本校の研修テーマ・学力向上プランとの関わり

本校では「言語活動を効果的に取り入れた国語科授業の創造」をテーマに国語科を中心として研究を行っているが、全教科で特に、身に付けたい力（ゴール）を明確にした授業に努力をしている。また、音楽科における学力向上として、以下に示す3つの学力の定着を図っていく。

(1) 音楽の基礎・基本を養う

音楽活動に必要な技能（正しい発声、正しい楽器の奏法）、思いや意図をもち、表現をしたり、聴いたりする能力、音楽の要素の正しい理解を図ること。

(2) 音楽の美しさや友達の演奏のよさや頑張りを認め合う心を養う

自分たちで学習課題を設定し、課題を主体的、協動的な学びの場の提供、自己評価や相互評価の工夫をする。このことに音楽科の学力の定着を図る。

(3) 多様な音楽経験を通し、音楽表現の楽しさを感じ取る

毎月の音楽集会、校内音楽会、音楽鑑賞教室（平成27年度は校内芸術鑑賞教室）など様々な学年の演奏を聴いたり、プロの演奏する音楽を聴いたりする。

4 題材の目標

- (1) 日本の音楽の雰囲気や旋律の特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり表現したりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ。
- (2) 日本の旋律の特徴を感じ取り、音を音楽に構成する過程を大切にしながら、まとまりのある旋律をつくる。

5 教材の選択（◎は本時で扱う教材）

(1) 「こきりこ」 富山県民謡 / 市川都志春 編曲（歌唱・器楽・音楽づくり）

富山県五箇山地方に伝わる民謡。田楽（豊作を祈願する芸能）の中で歌われてきた。一時期忘れ去られていたが、詩人の西條八十が聞き取り調査を行ったことで復活した。23cmほどの細い竹でできた「こきりこ」や「ささら」と呼ばれる民族楽器などとともに演奏されてきた曲である。最近では古い絵の中に描かれていたものや、歌の中に出てくる楽器を使って演奏するため、「こきりこ」の他に棒ざさら（すりささら）、鍬金、笛、鼓、太鼓といった日本古来の楽器が使われている。

(2) ◎「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の音の旋律づくり

2小節のまとまりのあるリズムをつくり、それを基にしながら「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の5音を使ってリ

コーダーを吹いて試行錯誤をしながら自分の気に入ったお囃子の旋律をつくる教材である。音価の分かる音符カードを用いて4分の4拍子で2小節のリズムをつくることを通して、音符の長さを理解しながら4分4拍子のフレーズ感を身に付けさせることができる。また日本の音楽で主に使用される5音階を使い、つくったリズムに音をつけていくので、日本の音楽のもつ雰囲気を味わいながら旋律づくりをすることができる。

(3) 「ソーラン節」 北海道民謡 / 「南部牛追い歌」 岩手県民謡 (鑑賞)

「ソーラン節」は北海道民謡でニシン漁の時に歌われていた作業歌である。拍節のあるリズムで歌われている。ニシン漁では、作業ごとに異なる仕事歌が歌われてきたが、この「ソーラン節」は網の中のニシンを船に引き揚げる「沖揚げ音頭」が元になっている。「南部牛追い歌」は岩手県の民謡で、牛方が牛の世話をするときや荷を運ぶ道中に歌った仕事歌で、拍節のない自由なリズムで歌われる。牛方は1人で7～8頭の牛を連れて峠を越えていたが、その時に歌われていた「牛方歌」が元になっている。

(4) 「神田囃子」 東京都 (第3時での参考曲として)

東京都の神田祭で演奏されるお囃子。神田祭は神田明神の例大祭で、山車や神輿の巡業が中心となる。毎年5月に行われている。

6 本題材で主に扱う【共通事項】と学習活動の関わり

〔共通事項〕 ア	音色	リズム	旋律	拍の流れ
〔共通事項〕 イ	反復		変化	
主な学習活動	- 日本の民謡の歌い方、旋律のよさを聴き取る。 - 拍の流れに乗って歌ったり、合いの手を入れたり、オスティナートの部分を演奏したりする。 - 日本の民謡の旋律にあった歌い方や音の出し方で演奏をする。 - 日本の音楽の雰囲気を意識して音を選び音楽づくりを行う。			

7 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①郷土の音楽の曲想に興味・関心をもち、聴き取ったことを生かして歌ったり、演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。 ②日本の音楽の雰囲気をもち、音の並び方に興味をもち、リズムや音を組み合わせる学習に主体的に取り組もうとしている。	○日本の音楽の雰囲気を音の並び方を意識し、思いや意図をもってリズムや音を組み合わせるお囃子の音楽をつくることができる。	①郷土の音楽の曲想の特徴を生かし、歌ったり、演奏したりするための技能を身に付けている。 ②日本の音楽を意識して、リズムや音の組み合わせを工夫したり、拍のまとまりを意識したりして演奏をしている。	○演奏経験を生かし、日本の民謡の歌声やリズム、旋律などの楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取って聴くことができる。
1時	①			
2時			①	
3時	②			
4時		○		
5時			②	
6時				○

8 題材の指導計画 (6時間扱い)

	○学習内容 ・ 主な学習活動	・ 指導上の留意点 ◇評価規準 評価の観点【 】 評価方法 ()
1	歌唱・器楽「こきりこ」 ○民謡「こきりこ」の原曲を聴き、今まで学習してきた歌との違いを感じ取る。 ・教科書をみて歌詞の内容を確認し、意味を確認する。	・今まで学習してきた歌との違いを、リズム、旋律、速度、使われている楽器、音階(調性)、発声などを観点として聴き取らせる。 ・教科書には鑑賞した民謡の1番と4番の歌詞を使用していることを伝え、学習で使う歌詞とは異なることを伝える。

	・主旋律を歌う。 ・副次的な旋律(オスティナート)の部分のリコーダーで演奏する。 ・二つのグループに分かれ、主な旋律と副次的な旋律を重ね合わせて演奏する。	・スラーの部分の伸ばし方、息継ぎの仕方を確認し、強弱や速さなども確認させる。 ・オスティナートの部分は同じ音が続き、拍があいまいになるので、1拍目を意識させる。 ◇【ア 音楽への関心・意欲・態度①】 郷土の音楽の曲想に興味関心を持ち、聴き取ったことを生かして歌ったり、演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。 (鑑賞の様子・演奏聴取)
2	○「こきりこ」にリズム伴奏をつけて演奏しよう。 ・教科書に載っているリズム伴奏例ア、イ、ウのリズムを確認する。 ・10人組のグループでリズム伴奏例ア、イ、ウの伴奏例を選び、締太鼓、鈴でリズム伴奏をする。 ・グループで歌、リコーダー、締太鼓、鈴、の役割を決め、演奏をする。 ・グループで発表会をする。	・グループは1グループ10名であることを確認させる。 ・リズム伴奏例は1小節分しかないので、演奏が終わるまでリズムを繰り返して演奏することを確認させる。 ・和太鼓、鈴は全員で1度は経験するように順番を決めさせる。 ・主旋律とのバランスを考え、役割を分担して演奏させる。 ・歌の役割にあたった児童には、前時に鑑賞した「こきりこ」の歌い方を想起させ、歌うようにさせる。 ・グループ練習が進んでいるグループには、終わり方の工夫をさせる。 ◇【ウ 音楽表現の技能 ①】 郷土の音楽の曲想の特徴を生かし、歌ったり、演奏したりするための技能を身に付けている。(演奏聴取)
3	○音符カードを使い、4分の4拍子でお囃子のリズムをつくる。 ・前学年で鑑賞した「神田囃子」を聴き、お囃子の雰囲気想起する。 ・教師が例示した音符カードの組み合わせ例を見て、リズムを確認する。 ・音符カードを組み合わせ、2小節分のリズムをつくる。 ・つくったリズムの組み合わせを、グループの友達と互いのリズムを手拍子で打って確認する。 ・正しいリズムの組み合わせになっているか確認し合う。 ・音符カードをワークシートに貼りつける。 ○音符カードの組み合わせの例に、「ミソラ」「ラドレ」の3音を使い旋律をつくる。 ・音符カードの組み合わせ例に教師が3音の中から音を選んだものを組み合わせたものを吹いて旋律のつけ方を確認する。 ・グループで音符カードの組み合わせ例を元に「ミソラ」「ラドレ」の音を組み合わせる旋律をつくる。	・3年生の時に学習した「神田囃子」を鑑賞し、お囃子の感じを想起させる。 ・音符カードそれぞれの音の長さを確認することや4分の4拍子の意味を確認させる。 ・音符カードを組み合わせる際には、同じカードを何枚も使ってよいことや、2拍分の長さの音符カードは小節線をまたがないことを理解させる。 ・音符カードを組み合わせる時には、「言葉でリズムアンサンブル」の学習で学んだ音楽づくりの技(繰り返しの技、変化の技など)を使うとまとまることを想起させる。 ・ここでのグループ活動は5人組で行わせる。(前時の10人グループを2つに分ける) ・グループで、正しい数でリズムが組み合わせられているか確認をさせる。また、つくったリズムを演奏してもらい、自分のイメージとあっているかを確かめてもらうようにさせる。 ・グループで正しいリズムカードの組み合わせになっていることを確認したものをワークシートに貼らせる。 ・ワークシートは次時の学習で使用することを伝える。 ・ホワイトボードに音符カードの組み合わせ例を拡大したものを張り、教師が実際に音を選んで書き込んで様子を見せ、旋律づくりの仕方を確かめさせる。 ・クリアボードに音符カードを組み合わせたものを挟み込んだものを使い、即興的に音の組み合わせをさせる。 ◇【ア 音楽への関心・意欲・態度②】

		日本の音楽の雰囲気をもつ音の並び方に興味をもち、リズムや音を組み合わせる学習に主体的に取り組もうとしている。 (行動観察・ワークシート)
4 本 時	○前時につくった音符カードの組み合わせに「ミ、ソ、ラ、ド、レ」の5音をつかってお囃子の旋律をつくる。 ・前時に3音でつくった旋律を演奏し、お囃子の旋律の感じをつかむ。 ・前時に各自がつくった音符カードの組み合わせたリズムに音をつける。 ・リコーダーで「ミ、ソ、ラ、ド、レ」の音を確認めながら、旋律をつくる。 ○つくった旋律を友達に聴いてもらい、アドバイスをし合ったり、手直しをしたりする。 ・グループで各自がつくった旋律を聴き合い、アドバイスをしてもらい、手直しをしていく。 ・演奏する前に、自分がどのようなイメージを持ってつくったのかを話してから聴いてもらうようにする。 ○つくった旋律を全体に発表する。 ・アドバイスを受け、手直しが終わっているグループの演奏を聴く。 ・全体への発表の時にも、自分のイメージをはなしてから演奏するようにする。	・前時にグループでつくった音の組み合わせの中から、お囃子のメロディーに近いものを選び、全員で演奏させる。 ・前時につくった音符カードの組み合わせに音をつけていくことを確認させる。 ・リコーダーで音を確認めながらつくってよいこと、前時と同様に3つの音でつくっても、5つの音を使ってもよいことを伝える。 ・音の確認めの時の音量を抑えることを確認させる。 ・音同士の高さが離れていると演奏しづらいことを確認させる。 ・音をつける時も音楽づくりの技（繰り返しの技、変化の技）などを使うとまとまりやすいことを確認させる。 ・音符カードの下部の欄に音を書くことを伝える。 ・自分のつくった旋律をリコーダーで演奏させる。 ・自分が思っているイメージを聴いてもらうことで、アドバイスをしやすくさせる。 ・必要ならば、リズムカードの張り替えも可能なことを知らせる ・お囃子の音楽になっている、グループの中でのアドバイスや手直しにより、お囃子の音楽になっているグループを選んで演奏を聴かせる。 ・グループでの聴き合いの時のように、自分のイメージをはなしてから演奏するようにさせる。 ◇【イ 音楽表現の創意工夫①】 日本の音楽の雰囲気をもつ音の並び方を意識し、思いや意図をもってリズムや音を組み合わせる学習に取り組もうとしている。 (行動観察・ワークシート)
5	○つくった旋律を組み合わせるお囃子の音楽を完成させよう。 ・前時につくった旋律をグループでつなぎ、お囃子の旋律をつくる。 ・リズム伴奏や掛け声をつけてお囃子を演奏する。 工夫した演奏を聴き合う。 ・互いの演奏のよさを聴き合い、交流をする。 つくった旋律を楽譜に書かせる。 ・ワークシートの五線に教科書P49ページの楽譜の書きかたを参考	・お囃子の音楽にすること、音楽づくりの技（問いと答え、反復、変化）を思い出し、旋律をつないでいくことを確認させる。 ・「こきりこ」の演奏の時に工夫したリズム伴奏を使い、グループの中でリズム伴奏をする人を選び、リズム伴奏をさせる。 ・つくった旋律の最後にある4分休符のところの掛け声を工夫させる。 ・お囃子の音楽になっているか、音楽づくりの技が使えているかを聴くように確認させる。 ・五線に表す前に、教師が音符の書き方を指導し、正しい書き方ができるようにさせる。

	にしてつくった旋律を残す。	・五線のどの場所に自分がつくった音を書くのかを確認させたり、教え合わせたりしながら楽譜づくりをさせる。 ◇【ウ 音楽表現の技能②】 日本の音楽を意識して、リズムや音の組み合わせを工夫したり、拍のまとまりを意識したりして演奏をしている。 (演奏聴取・ワークシート)
6	○日本の民謡の旋律の特徴や音色、リズムの特徴を味わいながら、「ソーラン節」や「南部牛追い歌」を聴く。 ・教科書を閉じて「ソーラン節」と「南部牛追い歌」のそれぞれの演奏を聴き、今まで学習してきた「こきりこ」や「お囃子の旋律」と同じところや違うところを話し合う。 ・それぞれの曲が仕事歌であることを知り、どのような仕事の時に歌われてきたのか想像して聴く。 ・教科書を開き、どのような仕事の時に歌われていた曲なのかを知る。 ・それぞれの仕事の違いを表すのはリズムや歌い方の違いがあることを確認する。 ○曲を聴いて感じ取ったことを伝える紹介文を書く。 ・演奏したり、リズム伴奏を工夫したりしたことを生かし、旋律の特徴や演奏の良さを、伝えたい相手を想定して紹介文を書く。	・教科書を閉じながら聴き、今まで学習してきた曲との違いを確認させる。 ・仕事歌であることを伝え、それぞれどのような仕事の時に歌われているのかを想像して聴かせる。 ・今まで学習してきた歌は、お祭りの時に使われるものであったが、仕事の様子を表す歌もあることを知らせる。 ・それぞれの仕事の違いを表すのはリズムや歌い方の違いということを確認させ、相違をワークシートに書かせ、交流して確認させる。 ・演奏を聴いていない家族や他の学年、担任の先生など聴く相手を想定し、それぞれの楽曲の旋律の特徴、よさが伝わるように書かせる。 ◇【エ 鑑賞の能力①】 演奏経験を生かし、日本の民謡の歌声やリズム、旋律などの楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取って聴くことができる。 (観察・ワークシート)

9 本時の学習指導（4／6時）

（1）目標 日本の音楽の雰囲気や音の並び方を意識し、思いや意図をもってリズムや音を組み合わせでお囃子の音楽をつくる。

（2）展開

学習内容・学習活動		指導上の留意点 ◇評価 評価観点【 】 評価方法（ ）	時間
1	前時までの振り返りをする。 ・前時に3音でつくった旋律を振り返り、リコーダーで演奏する。	・前時につくった旋律の中から、お囃子の旋律に近いものを選び、ホワイトボードに掲示したものを全員で演奏させる。	5
2	本時のめあてを確認する。 「ミソラドレ」の音を使ってお囃子の旋律をつくり、演奏をしよう		

3 リコーダーで音を確認しながら、お囃子の旋律をつくる。 ・前時に各自がつくった音符カードの組み合わせたリズムに「ミソラドレ」の音をつけお囃子の旋律をつくる。	・前時に使用した音符カードの下部にある欄に音を書くようにさせる。 ・リコーダーで音を確かめながらつくってよいこと、前時と同様に3つの音でつくっても、5つの音を使ってもよいことを伝える。 ・音の確かめの時の音量を控えることを確認させる。 ・音同士の高さが離れていると演奏しづらいことを確認させる。 ・音符カードの下部の欄に音を書くことを伝える。	15
お囃子の旋律づくりの条件 ①ミ、ソ、ラ、ド、レの音の中から選んでつくる。 ②5つの音を全部使うのではなく、前の学習のように3つの音でもよい。 ③音の高さが離れていると演奏しづらいので、はなれすぎないようにする。 ④お囃子の音楽の音になるように意識してつくる。		
4 つくった旋律を友達に聴いてもらい、アドバイスをし合ったり、手直しをしたりする。 ・グループで各自がつくった旋律を聴き合い、アドバイスをしてもらい、手直しをしていく。 ・演奏する前に、自分がどのようなイメージをもってつくったのかを話してから聴いてもらうようにする。	・自分のつくった旋律をリコーダーで演奏させる。 ・自分が思っているイメージを聴いてもらうことで、アドバイスをしやすくさせる。 ・必要ならば、リズムカードの張り替えも可能なことを知らせる。	12
◇日本の音楽の雰囲気や音を音の並び方を意識し、思いや意図をもってリズムや音を組み合わせるお囃子の音楽をつくることができる。【イ-①】(行動観察・演奏聴取・ワークシート) Bと評価される児童 ・日本の音楽の雰囲気(ここではお囃子)の音づかみを意識して旋律づくりをすることができる。 Aと評価される児童 ・B評価のほかに、自分のつくった旋律や友達のつくった旋律に修正を加えたりすることができる。 Cと評価される児童への手立て ・教師が児童の考えている音を聴きとり、教師が演奏をしたものを聴き、日本の音楽の雰囲気(ここではお囃子)の旋律に合うかを確認しながらつくっていく。		
5 つくった旋律を全体に発表する。 ・アドバイスを受け、手直しが終わっているグループの演奏を聴く。 ・全体への発表の時にも、自分のイメージを話してから演奏するようにする。	・お囃子の音楽になっているグループの中でのアドバイスや手直しにより、お囃子の音楽になっているグループを選んで演奏を聴かせる。 ・グループでの聴き合いの時のように、自分のイメージを話してから演奏するようにさせる。	10
6 片づけをし、次時の学習を知る。	・次の時間は、グループで各自がつくった旋律をリコーダーで演奏しながら並べ替えて演奏したり、リズム伴奏をつけたりしていくことを伝える。	3